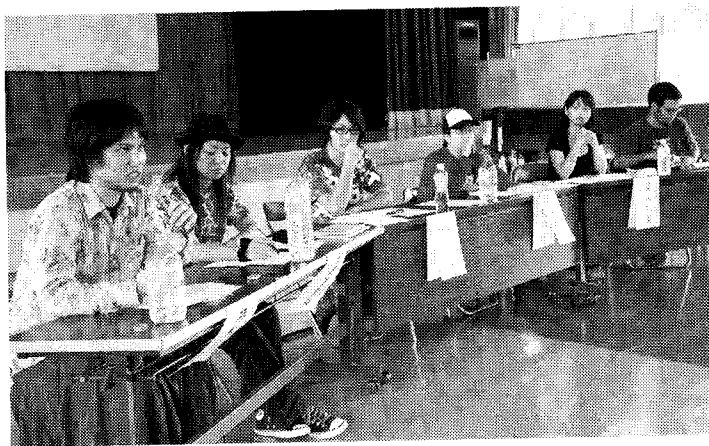


「駄目」と声上げて

大学生らがセクハラシンポ



大学内でのセクシャル・ハラスメント(性的嫌がらせ)など性暴力について考えるシンポジウムが十三日、那覇市の久茂地公民館で開かれた。学生を中心としたネットワーク「OUT and 合意してないプロジェクト」が主催。学生や大学教員が、「教師と生徒」、「男性と女性」など

大学内でのセクハラを中心に性暴力について意見を交わす学生ら13日、那覇市・久茂地公民館

制度化された権力構造の中で暴力が再生産されると指摘し、「OUT(駄目)」と声を上げる必要性を訴えた。

ていく重要性を強調した。

ほかの学生からは「見方を変えれば性は無数にある。社会や学校制度で植え付けられた男らしさ、女らしさの二つだけにとらわれることが、暴力を隠し、男性中心主義の強化につながる」、「固定された構造に慣れてしまうのではなく、周囲の学生とも協力して、嫌だと主張しないとイケない」などの意見があった。

いという声は、被害を認識し受け止められる社会になるよう、変容を求めるものだ」と述べた。

同プロジェクトは、性暴力以外にも、既成の社会的規範の中で「タブー」として覆い隠される物事に対して、声を上げるネットワークづくりを進めている。問い合わせはout@okinawaforum.org

シンポには六十人が参加。琉球大学三年の持木良太さんは、「(学生は)教師からの印象が悪くなれば成績や就職に影響するかもしれないという、外部から閉ざされた力関係の中にある」とし、誰でも被害者になり得るという視点から、学生自身が打開の道を探っ

「わたしは合意していな

okinawaforum.org